

地域と歩んだ「標」^{しるべ}

釧路公立大学は、釧路管内の市町村による一部事務組合方式により、地域分権時代の先駆者として、地域が自らの力で開学した大学です。昭和63年にその歩みをスタートしてから、7,500名を超える卒業生を輩出してきました。

建学の理念である「地域に結びつき開かれた大学」「国際性を重視する大学」「理論と実践の相まった大学」をキーワードに、地域と密着した研究活動、地域の人々との交流、ボランティアなどの地域貢献、様々なスポーツ・文化活動など、本学の取組と学生の活躍をご紹介します。





地域経済研究センター

～地域と歩んだ「^{しるべ}標」～

★ インタビュー

interview

地域経済研究センター長 佐野 修久 教授

地域のシンクタンクとして18年

地域経済研究センターは、平成11年6月に開設されて以来、「地域に結びつき開かれた大学」の理念に基づき、社会科学系研究機関として、また地域のシンクタンクとして、地域の持続的発展に積極的に貢献するための地域研究と情報発信等に努めています。私は平成24年4月に2代目のセンター長に就任し、6年目になります。

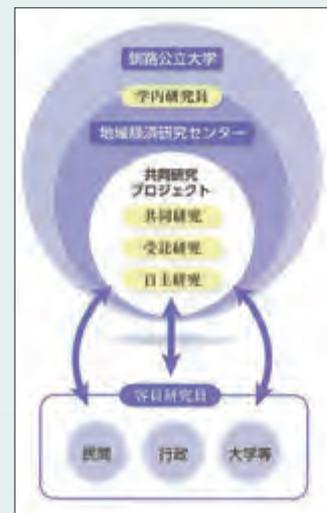


地域研究の水先案内人として

地域経済研究センターでは、地域の現状や課題の検証、地域課題の解決や地域の活性化に向けた方策、地域の実態を踏まえた創造的な政策のあり方等についての研究を、テーマ毎に「共同研究プロジェクト」を組成する形で進めています。単に研究するだけにとどめず、その結果が政策の形成や事業の実現につながるよう努めています。また、この共同研究プロジェクトに積極的に地域の人々が参加することによって、研究の過程で得られた知識・経験が地域の資産として残り、地域の人材育成につながることも目指しています。当センターはプロジェクト全体をリードし、コーディネートする役割を担いますが、課題解決に向けたプロセスや手法のヒントを、研究スタッフに提示し、研究員自らが力をつけていくよう、水先案内人のような役割ができればいいと思っています。

平成28年度までに延べ325名が客員研究員として参加し、48件のプロジェクトを実施してきましたが、最も大きな役割を果たしたのは釧路市との共同研究プロジェクト「釧路市の自治体経営のあり方に関する研究」ではないかと思っています。これは蝦名市長も参加し、今後の釧路市が向かう都市経営の方向を議論し提言したもので、釧路市が策定した「釧路市都市経営戦略プラン」（市役所改革プラン、財政健全化プラン、政策プランから構成）につながりました。

また、この都市経営戦略プランで重要な位置付けを担う、公有資産マネジメントの推進（釧路市における公有資産マネジメントのあり方に関する研究）、釧路市に適した市民ファンドの仕組みである「くしろ応援ファンド」の創設（釧路市における市民ファンド構築に関する研究）、市と民間主体が連携して公共を担う公民連携の推進（釧路市における公民連携のあり方に関する研究）などについても政策提言を行い、都市経営戦略プラン推進をバックアップしています。



卒業生が共同研究プロジェクトの一員に

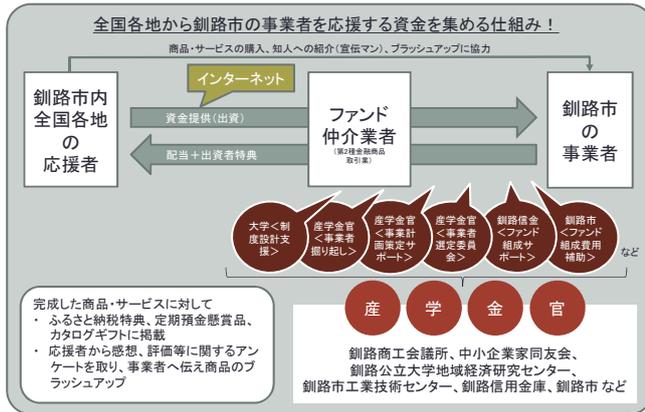
釧路公立大学は、釧路市、釧路町、厚岸町、浜中町、標茶町、弟子屈町、鶴居村、白糠町の釧路管内8市町村により構成される一部事務組合であり、当センターは、「地域に結びつき開かれた大学」を実践する場として、より一層これら地域に貢献していきたいと考えています。地域の未来を創造することにつながる研究を進めるとともに、地域と連携し経営感覚に富んだ人材の育成・底上げを図っていききたいと思います。釧路公立大学の卒業生が社会人となり、将来、共同研究プロジェクトの一員として一緒に地域のことを考える。そんな地域の要の場所として発展していくことができればと期待しています。

センターの主な活動内容

共同研究プロジェクト(事例紹介)

● 釧路市における市民ファンド構築に関する研究

地域資源を活用した釧路の事業を応援するために、釧路市内はもとより全国各地の方々から小口の資金を提供いただく釧路市らしい「市民ファンド」の仕組みを検討しました。



共同研究プロジェクトから実現した「くしろ応援ファンド」の概要

● 釧路市における地場産品振興のあり方に関する研究

釧路市における地場産品振興にかかる取組の現状と課題を明らかにした上で、今後釧路市で求められる地場産品振興の方向について検討しました。

● 弟子屈町における公共施設マネジメントのあり方に関する研究

「公共施設等総合管理計画」の策定を見据え、弟子屈町における公共施設等の現状と課題について明らかにするとともに、今後の基本的なマネジメント方針について検討しました。

● 釧路市における公民連携のあり方に関する研究

釧路市が「都市経営」を進めていく上で重要な視点となる、市と民間主体が円滑に連携する「公民連携」を推進していくための基本的な考え方について検討しました。

地域へ発信／フォーラム・セミナー・講演会の開催

地域経済研究センターでは、地域の課題を考え、解決していく上で参考となるテーマを取り上げ、外部から有識者を招いたフォーラムやセミナーを開催するなど、地域の方々に対する積極的な情報発信にも努めています。

● 地域経済セミナー

「リノベーションによる居心地のよいまち空間の形成」平成28年7月
くしろリデザインプロジェクト・ユニットとの共催により、香川県高松市の仏生山地区において、まち全体を旅館に見立てて空家等のリノベーションを行い、居心地のよいまち空間づくりを進めている取組の紹介や魅力的なまち空間を作り上げていくためのポイント、留意点などについて考えるセミナーを開催しました。

● 地域経済セミナー

「〈消費者の声〉を収集し、商品開発に活かす」平成29年2月
くしろ創生プラットフォームとの共催により、地場産品の振興を図っていく上で大切な消費者ニーズを把握するための多様な手法とそれを反映した商品開発や販路拡大等について紹介いただくセミナーを開催しました。



地域との協働／まちなかの活性化をめざす市民活動を支援

平成27年度から、釧路市中心部に多数存在する空きビルや空室を資源ととらえ、それをリノベーションすることで新しい事業を起こし、まちをかえていこうという市民活動団体「くしろリデザインプロジェクト・ユニット」と協働し、釧路市のまちなか再生を図る取組を支援しています。

釧路公立大学附属図書館

～地域と歩んだ「標」^{しるべ}～

★ インタビュー

i n t e r v i e w

附属図書館長 **白川 欽哉** 教授

蔵書数23万冊超、地域にも開かれた図書館

本学附属図書館が所蔵する23万冊を超える蔵書は、経済・経営関連の専門書はもとより、文学、歴史、哲学、自然科学、言語、技術、芸術、郷土資料、雑誌など、あらゆる分野を網羅。全国公立大学平均蔵書数11万3,000冊を大きく上回っています。蔵書数は毎年平均7,500冊のペースで増え続けており、平成17年には書庫と閲覧スペースを増築し、その変化に対応してきました。この蔵書増は、本学と附属図書館を「道東の知の拠点」の一つとして位置づけてきた本学事務組合の八つの釧路管内市町村、同窓会、後援会、そして地元企業に支えられています。

蔵書の利用はすべて開架方式で、利用者は直に手に取って本を選ぶことができます。また、PCの館内貸出も行っています。さらに本学教職員や学生のみならず、学外者の図書館利用も可能で、研究・教育環境の充実と「地域に開かれた図書館」という二つの課題に対応すべく尽力しています。

館内を回ると、講義やゼミの準備、採用試験、資格試験の勉強、卒業研究などに勤しむ学生、雑誌コーナーでくつろぐ学生、専門書や文芸書を借り出している学外者、多数の専門書を抱える教員の姿を見かけます。インターネットの普及により、そうした図書館の「風景」が変わる日が来るかも知れません。新しい時代に対応可能な図書館。それが今後の課題です。



地域に出向き・地域から受け入れる

～地域と歩んだ「標」^{しるべ}～

公開講座の開催

本学では「地域に結びつき開かれた大学」の理念を具体化するために、教員が地域に出向き、研究成果を発表する機会を設けています。地域住民に大学の知的資源を公開し、住民の知的関心を触発するという公開講座の基本理念の下、平成2年以降毎年、本学の専任教員が講師となり、本学と釧路管内の各自治体を会場として、4講座を開催しています。これまでの受講総数は、5,243名となります。

科目等履修生・聴講生の受け入れ

科目等履修生とは本学の学生以外の者が単位修得を目的として授業科目を受講する者をいい、聴講生とは単位取得を目的とせず受講する者をいいます。

平成29年度までに、科目等履修生はのべ83名、聴講生はのべ56名が釧路公立大学で学びました。

北海道学生研究会SCAN

～地域と歩んだ「標」～

北海道学生研究会 SCAN(スキャン)は、学生・企業・住民が、協力し合い地域の問題に向き合っていく、そのきっかけづくりとそれらをつなぐ媒体となることを目的とし、平成 22 年に釧路公立大学で設立されました。“SCAN”という名称は、“Sophisticated Community and Academics for Networking.”の略であり、Scan(調べる)を通じて、企業・大学を含めた地域のつながりをよりよいものにしていくという意味が込められています。

現在は、道内の大学9校(釧路公立大学、北見工業大学、札幌学院大学、札幌大学、北翔大学、北海学園大学、北海道教育大学旭川校、北海道教育大学釧路校、北海道メディカルスポーツ専門学校)で活動しています。

大学生の社会参加・社会連携が注目される中、全国の先駆けとして、SCANは「研究成果の地域への還元」を活動理念に掲げ、合同研究会を通じ研究成果を学外へ発信しています。

地域の課題 学生目線で

釧路で道内大学研究発表



発表する下山ゼミAのメンバー

今回7回目となる合同研究会(教育大学釧路校・同旭川校)は、北見工業大学、道一なび大学、専門学校学校の19

研究が参加。今回は「地域」をテーマにした。道内各大学の学生が、北海道各地域の課題について、研究発表を行い、各研究発表の題目、発表の趣意、発表の要旨を掲載した。掲載の趣意を掲載した。

地元食材活用 経済効果に／総合スポーツクラブを

「今回は、道内各大学の学生が、北海道各地域の課題について、研究発表を行い、各研究発表の題目、発表の趣意、発表の要旨を掲載した。掲載の趣意を掲載した。」

「今回は、道内各大学の学生が、北海道各地域の課題について、研究発表を行い、各研究発表の題目、発表の趣意、発表の要旨を掲載した。掲載の趣意を掲載した。」

「今回は、道内各大学の学生が、北海道各地域の課題について、研究発表を行い、各研究発表の題目、発表の趣意、発表の要旨を掲載した。掲載の趣意を掲載した。」

釧路新聞 平成28年12月11日 掲載

インタビュー

interview



北海道学生研究会SCAN第7期代表
大日向 雅人さん(経済学科4年)

私は秋田県生まれ秋田県育ちで、幼い頃から近所の方々を始め、多くの地域の方々から優しく育てていただきました。釧路公立大学に入学し、少しだけ大人になった節目に、地域を活性化させたいと思う気持ちが増してきました。そこで出会ったのが SCAN です。SCAN では同年代の大学生が主体的に生き生きと活動をしていました。それを見て、間接的にはありますが、地域のために何か恩返しをしたいと思い参加することにしました。

SCAN の活動で特に印象に残っているのは、学生の研究意欲を向上させるために開催された「インターカレッジフォーラム」

に、オリンピック出場経験のあるカーリング選手とトークショー形式の講演会を行ったことです。平成 28 年度の活動テーマが「スポーツといきる地域」だったので、スポーツと地域の関わりについて深掘りして学べる大変貴重な講演会になりました。

SCAN は文系だけではなく理系の大学も参加しています。様々な視点から「地域」について考えることができ、その考えを参加校、地域の方、企業の方と共有できたことが、やはり一番よかったと思います。地域についての課題などの見え方・考え方は一つではないと学ぶことができました。SCAN の活動の中では、普段お会いすることがないような企業の方、地域の方、行政の方と接する機会が数多くありました。そのような場面でのマナー、言葉遣い、時間感覚など経験することすべてにおいて苦勞しました。

平成 29 年度より SCAN の活動拠点は札幌に移りましたが、基本的に活動内容はあまり変わりません。地域活性化について、我々学生が主体的に考え、地域とのつながりをよりよいものにしていきます。これからも我々の活動が多くの方の目にとまり、一人でも多くの方が地域について考えていただけるように、SCAN メンバー一同、尽力して参ります。また、SCAN が活動できているのは、これまでのたくさんの方々のご協力のおかげです。すべての関係者様に恩返しができるよう、日々精進いたします。

カフェ ラ・ペ

～地域と歩んだ「標」～



平成28年5月20日、学内喫茶「カフェ ラ・ペ」がオープンしました。同年1月から運営組織「カフェラボ」を立ち上げ、学生自ら開設準備・企画・運営をし、業者の撤退により平成20年から閉鎖していた喫茶コーナーを復活させました。学内の飲食施設を学生が運営するのは、道内の国公立大学では初めての試みです。

「実践的な経済学を学ぶ場」として、主体的に目標を設定し、行動・実行する過程を通じて、キャリア形成を図る就業体験の場となっています。また、学生のキャリア形成・教育効果の向上、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力など、他者との接触の中で求められる能力が養われることが期待されます。

一方、学生の憩いの場の創出や地域の方々の利用を通じて学内外に魅力ある釧路公立大学を発信しています。

釧路大内に学生カフェ

経営学学ぶ場「貴重な経験」

釧路公立大学に20日、学生自ら始め、提供・販売や、売り上げを生体が運営する「カフェ ラ・ペ」がオープンした。学内の調理訓練も重ねた、光に近い形で学生が活躍する場と位置付けており、就職活動などにも経験を生かしたいと考えた。

経営学科3年の清水啓希さん(20)が、同校の地域貢献をしようと自志を募り、今年月に「釧路公立大学カフェラボ」を設立。同大学の13年20人が所属し、学内で閉鎖していた喫茶スペースを復活させようと準備を進めていた。

大学側は同様に運営を委託する形で年間60万円を拠出。販売戦略や仕入れ方法、衛生管理、メニューなどを検討している。

初日はオープン前から学生が列をつる中、大きな聲もなく種類のメニューを提供。豊前別で並んでいた島野亮吾さん(18)は「自分たちで行動を起こすのは初めてだし、尊敬している。メニューもおいしいので今後も利用したい」と話した。

清水さんは「無事にオープンできて嬉しく思っている。まずは半年くらいだけでも準備を提供していきたい」と話した。また、学生自ら飲食施設を運営することで「自分たちが学んでいる知識が実際に生かせる貴重な経験を通じて、成長していきたい」と話した。

(二)坂部 未

釧路大内にオープンした学生自ら運営するカフェ



釧路新聞 平成28年5月22日 掲載

★ インタビュー interview



カフェラボ代表
前川 直さん(経営学科3年)

カフェ ラ・ペの「ラ・ペ」は、フランス語で憩いの意味で、学生はもちろん市民の方にも広く利用いただける憩いの場を目指しています。現在部員は30名で、学業やアルバイト等に支障が出ないようにローテーションを組み、交代で運営しています。サークルメンバーの中には飲食店でアルバイトしている人もいて、そうした経験者の意見を店舗の運営に取り入れています。

メニューは一杯ずつ丁寧にハンドドリップしたブレンドコーヒー、ホットドック、コーヒーゼリーのほか、季節限定メニューも出しています。将来は、学外に店舗を借りてお店を出すことを目標にしており、今はその資金を貯め、ノウハウの蓄積をしている最中です。

よさこいサークル 心～sin～釧路学生魂

～地域と歩んだ「しるべ標」～

よさこいサークル“心～sin～釧路学生魂”は釧根初のよさこい学生チームです。釧路公立大学の学生が中心となり「学生の熱いパワーで釧路をもっと盛り上げたい」という想いで、平成21年11月発足しました。後に北海道教育大学釧路校、釧路短期大学の学生も加わり、混成チームが結成されました。サークル活動を通じ、釧路市内の大学間の親睦、交流を深める場となっています。チーム発足時からの活動コンセプトは「心」で、チームとして「メンバー同士の心を共有しよう」、舞台では「お客さんに心を表現しよう」という意味が込められています。

毎年6月に札幌で開催されるYOSAKOIソーラン祭りへの出場をはじめ、くしろ港まつりなどの地域で開催されるイベントやお祭りへの参加、福祉施設への慰問など、地域に愛されるチームを目指し活動を続けています。



第26回 YOSAKOIソーラン祭りでの演舞(平成29年6月)



釧路公立大学での練習風景

★ インタビュー

interview



よさこいサークル“心～sin～釧路学生魂”代表代行
外崎 功陽さん(経済学科2年)

私は高校まではサッカーをやっていましたが、大学では何か新しいことに挑戦したいと思い、先輩から熱心に勧誘を受けたこともあり、このサークルを選びました。

3大学が一緒になっての活動で、週2度、釧路公立大学か教育大学釧路校に集まり練習しています。それ以外にも、メンバーがそれぞれ自主練習もしていますし、練習以外での交流も活発です。構成班、衣装班、振り付け班などそれぞれの担当がいて、札幌のYOSAKOIソーラン祭りのファイナルステージ進出を目指して頑張っています。

お客様の前で踊りを披露することはとても楽しいですし、充実感があります。くしろ港まつりをはじめ、地域のイベントやお祭りに呼んでいただいて、特に夏場は演舞を披露する機会が多くあります。YOSAKOIソーラン祭りでのファイナル進出の実績はまだありませんが、来年こそはあのステージに立てるようになりたいです。

音楽サークル

～地域と歩んだ「^{しるべ}標」～

アカペラコーラスサークル “アニュー”



入学式での校歌紹介

✧ インタビュー

interview



アカペラコーラスサークル“アニュー”代表
川内 翔太さん(経済学科3年)

アカペラコーラスサークル“アニュー”は、現在男声10名女声6名の計16名で活動をしています。サークルが結成されてまだ4年と新しい部です。毎年7月には大学の大講堂で開催する定期演奏会や、釧路合唱連盟主催の合唱祭にも出場しています。その他に学内の活動では、入学式で校歌を紹介したり、ウィンターコンサート、大学祭や学内喫茶カフェラ・ペでのアカペラコンサートなどを行っています。地域のイベントでは、くしろチューリップ&花フェアなどにも出演しています。

少人数で活動しているので和気あいあいとしてみな仲よしですが、人数がもう少し多いと、歌にボリュームが出せるので、メンバーがもっと増えてほしいなと思っています。

活動の様子はYouTubeにもアップしていますので、是非チェックしてみてください。

弦楽アンサンブルサークル



福祉施設での慰問コンサート

吹奏楽部



入学式での演奏

学生の活躍（全国大会出場等）

～地域と歩んだ「標」～



経営学科4年 齊藤 正輝さん(写真中央・赤のユニフォーム)
平成28年9月2日～4日に埼玉県熊谷市にて行われた天皇賜盃第85回日本学生陸上競技対抗選手権大会(3,000m障害)へ出場。



経営学科2年 松本 誠由さん(写真右端)
平成28年10月1日～10日にブルガリアにて行われたアームレスリング世界大会(2016 WAF World Armwrestling Championships in Bulgaria)において、日本代表として出場。

釧公大アメフト部「スナイパーズ」

初の1部昇格をかけた入れ替え戦を前に意気込むスナイパーズの選手たち



4戦全勝 道学生部初V

5年連続最下位から快進撃

スナイパーズには選手16人とマネージャー5人が所属。同じくは道内大会が集う唯一の公式戦で、1部6校、2部5校でそれぞれ総当たり戦を行う。

リーグ初戦は、昨年優勝の道医療大に33-0と無失点で勝ち、2010年不戦勝以来の白星を挙げた。勢いに乗って「勝つことも無い上がらず、反響しながら次の試合に進んだ」。坂本主将(21)は、室工に67-12、東奥大網走に40-27と連勝し、1988年の創部以来初の2部優勝を決めた。23日の道料半大の最終戦も39-12で制した。「勝たたいと言いつつ、気持ちも探りも足りなかつた。このままではいけない」と選手たちが振り返る。1部の帯広大に大敗した5月の練習試合、想定外の相手の守りに攻撃が全通用せず、美玉を痛感した。その後、ゼミやアルハイの日程練習を惜みずなど、工夫し練習時間を捻出する。相手の守り方を向かい、相手の攻撃側の前線となるランマンの連携を何度も確立した。夏には練習試合も勝つなど手応えを感じていた。入れ替え戦の相手は量級選手が多い1部最下位の札大。坂本主将は「臆せず向かっていきたい」と意気込む。

30日入れ替え戦「臆せず挑む」

釧路公立大アメリカンフットボール部「スナイパーズ」が9月10日に開かれた第42回道学生選手権大秋季リーグ2部で初優勝した。昨年まで5年連続最下位から、4戦全勝の快進撃。4年生の坂本祐介主将(21)は、時間がたつて実感がわいてきた」と喜ぶ。30日には初の1部昇格をかけた入れ替え戦に臨む。(小野隆子)

北海道新聞 平成28年10月25日 朝刊掲載



軟式野球の高松宮賜杯釧路支部大会の一部と二部の決勝が、25日に釧路市広里の市民付属球場で行われた。一部は釧公大軟式野球部、二部は釧路市の社会人チーム「ブレイス」が、共に初優勝を飾った。(二色朋恵)

軟式野球・高松宮賜杯釧路支部大会



北海道新聞 平成29年6月27日 夕刊掲載

一部は釧公大初V

二部社会人「ブレイス」も

北海道軟式野球連盟釧路支部の主催で、一部15チーム300人、二部14チーム280人が出場した。前年度の成績で、チームを一部と二部に分けて5月21日からトーナメント戦を行った。優勝したチームは7月に中標津町で開かれる全道大会に進む。

一部決勝は、二部から一部に上がったばかりの釧公大軟式野球部と標茶町の社会人チーム「華月倶楽部」が対戦。釧公大は四回表に2点、六回表に1点を入れ、3対0で優勝した。公立立3年の新山太郎(21)は「投手がよく、守備もエラーが少なかった。全道大会ははげがないよう頑張ってくる」と話した。

二部決勝は釧路市の「ブレイス」と釧路市役所野球部が戦った。八回表まで2対2の同点で、八回裏にブレイスが犠牲フライで1点を入れ、その後すぐ2点を追加し、5対2で優勝した。ブレイスの安部道範監督(54)は「チーム内の声かけがよくて、八回裏に勢いに乗れた。9年目での初優勝はとてもうれしい」と喜んだ。

